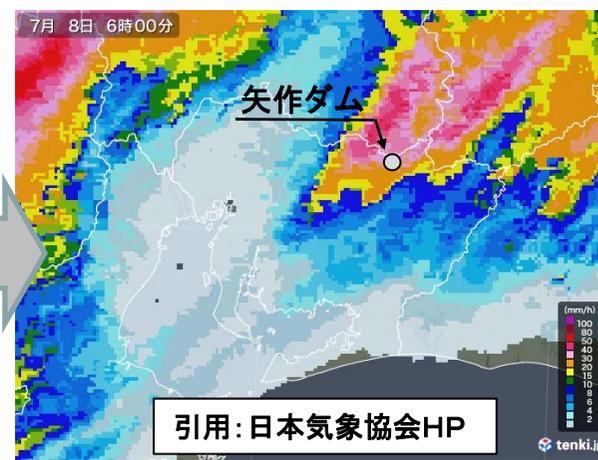
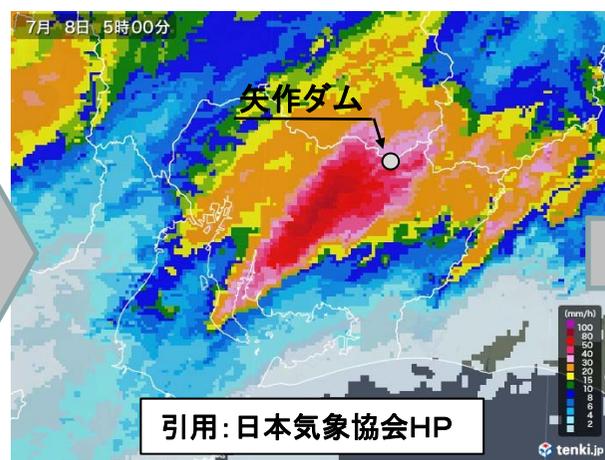
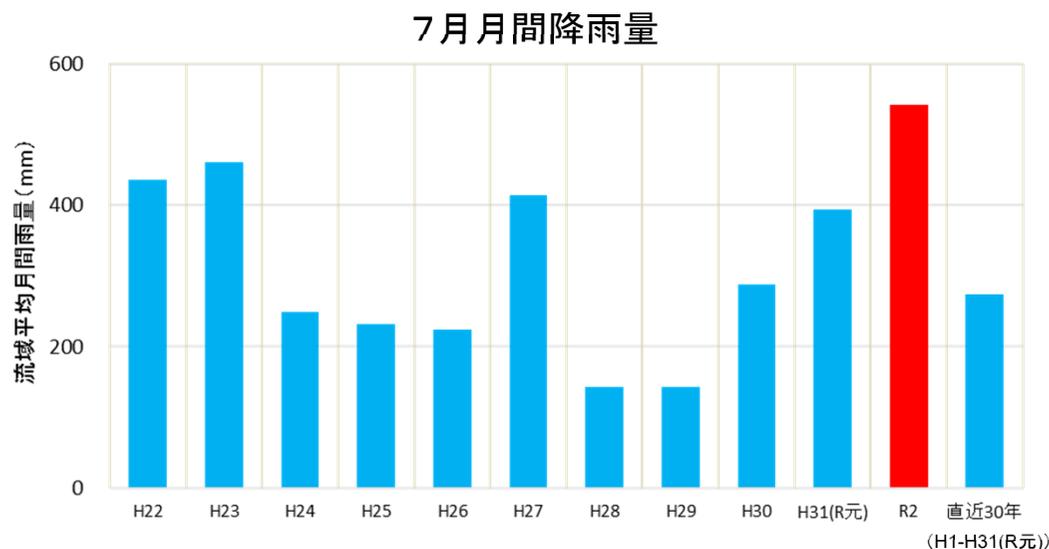
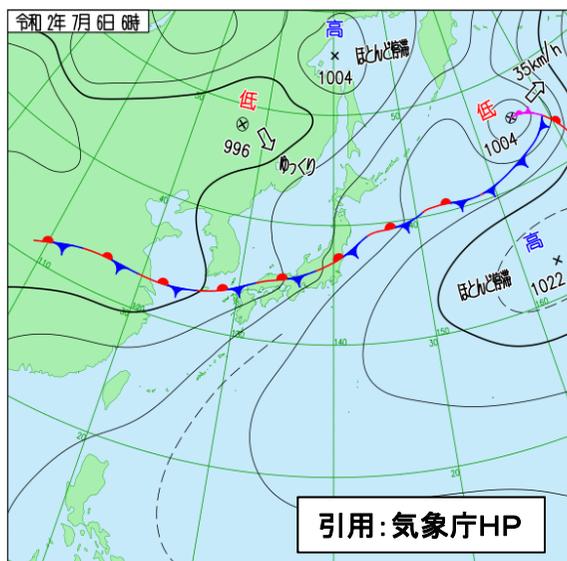


# 矢作ダムの出水対応実施結果【速報版】

国土交通省中部地方整備局  
矢作ダム管理所

○7月3日から7月18日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線の影響により、矢作ダム流域の累加雨量は**515.8mm**、最大時間雨量も**30.7mm/h**(7月8日5時)を観測しました。

○7月18日現在で、すでに7月の月間平均降雨量(直近30年)を大きく上回る雨量を観測しています。



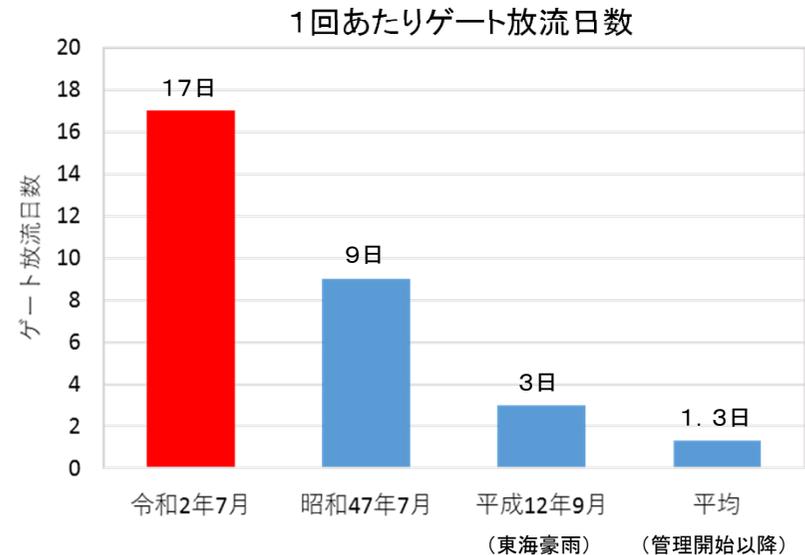
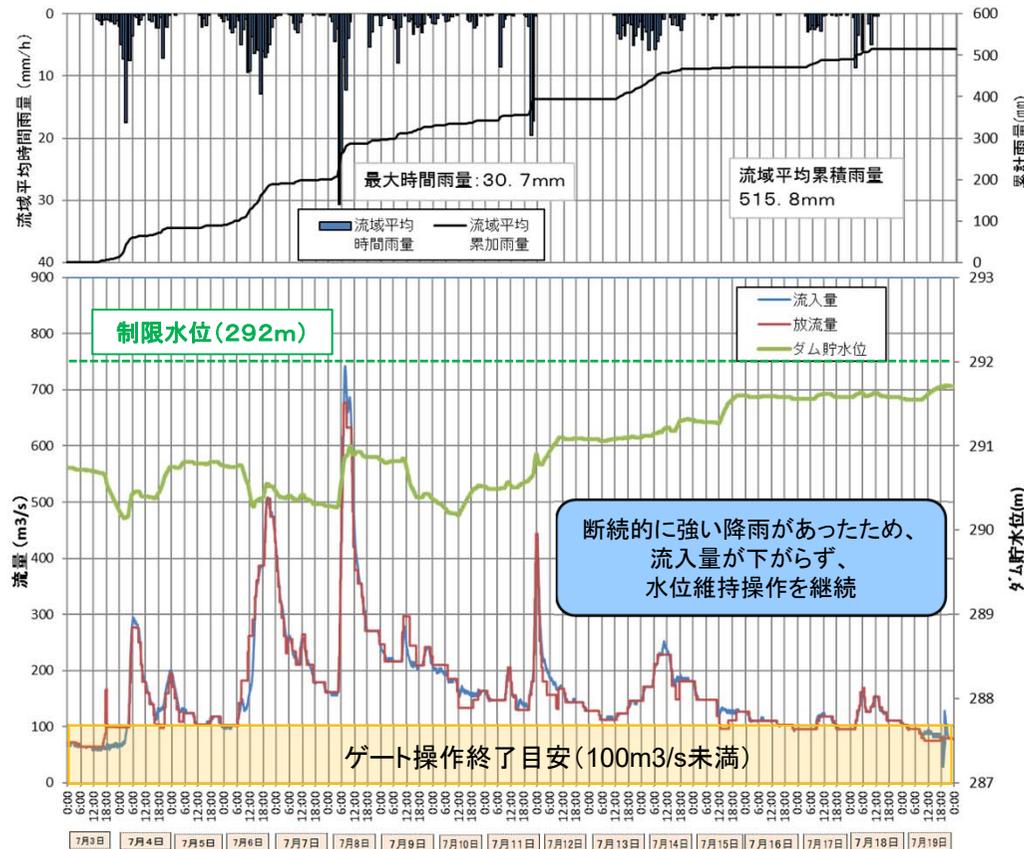
注)この資料は速報として取り急ぎまとめたもので、後日一部訂正や追加することがあります。

# 矢作ダムへの出水対応実施結果【速報版】

国土交通省中部地方整備局  
矢作ダム管理所

- 矢作ダムでは7月3日17:30からゲート放流を開始し、最大流入量は742.17m<sup>3</sup>/s(7月8日8時)を記録しました。
- 流域内降雨総量※は、260,726千m<sup>3</sup>(参考:東海豪雨時 208,863千m<sup>3</sup>)を記録しました。
- 矢作ダムでは、断続的な雨が降ったことにより、長期にわたり流入量が低下せず、制限水位を越えないようにゲート操作を継続して実施しました。その結果、1回あたりゲート放流時間の最長記録を大幅に更新する大雨となりました。(9日間→17日間)  
平均ゲート操作期間1~2日間と比べると、長期的に断続的な雨が降ったことがわかります。

※流域内降雨総量 = 流域平均総雨量 × 集水面積504.5km<sup>2</sup>



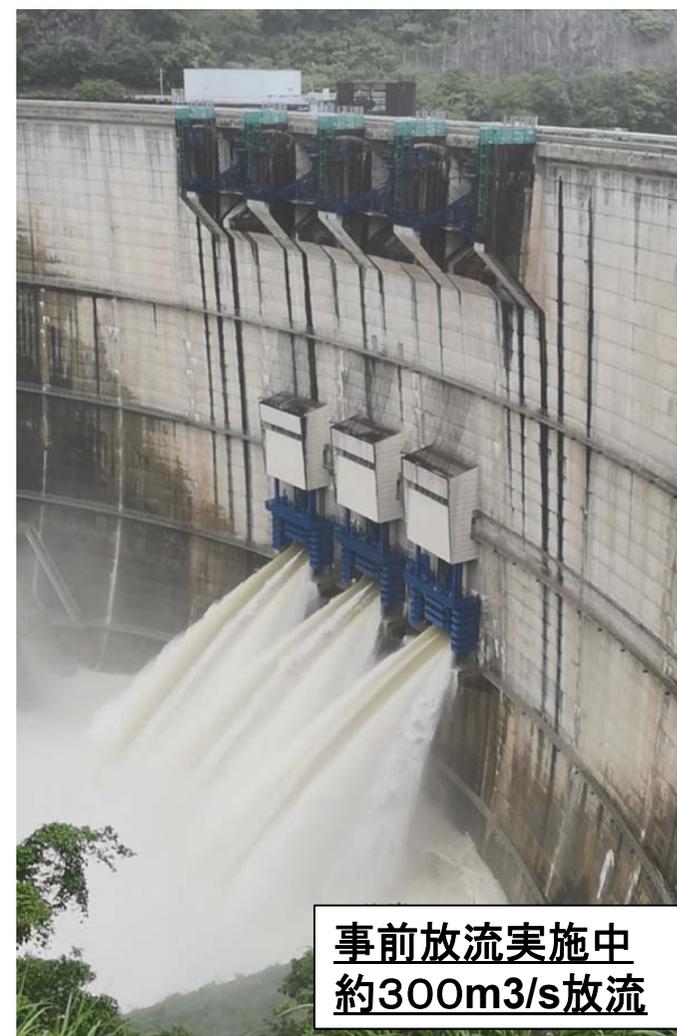
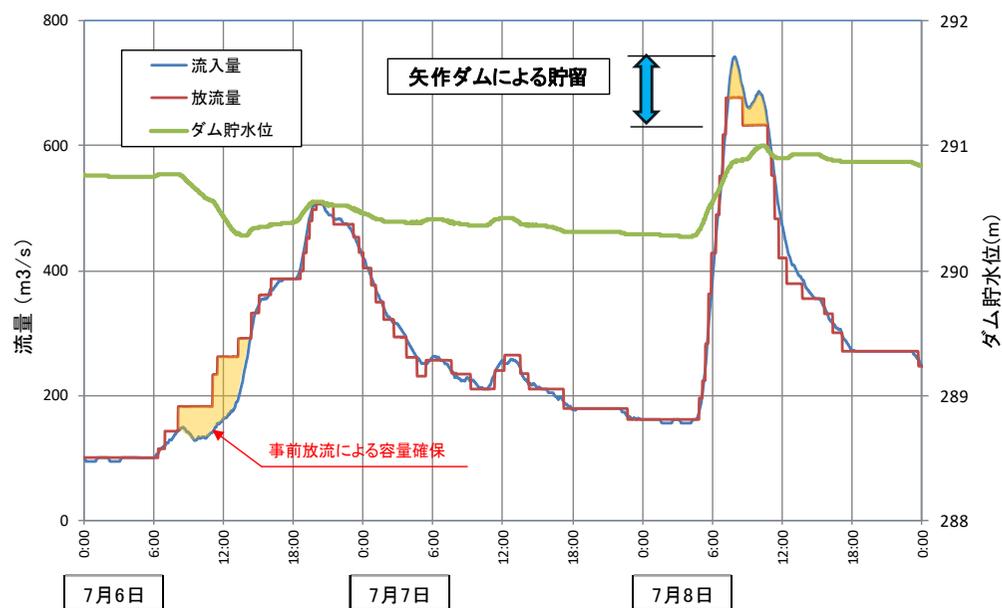
注)この資料は速報として取り急ぎまとめたもので、後日一部訂正や追加することがあります。

# 矢作ダムのお水対応実施結果【速報版】

国土交通省中部地方整備局  
矢作ダム管理所

○7月6日9:00から7月8日に予想された大雨に備えて、治水協定締結後、**初めて事前放流を実施**しました。(832千m<sup>3</sup>確保)

○結果的には、大きな洪水とはならなかったが、下流の河川水位を上昇させないための容量として、事前放流で確保した空き容量を有効活用し、阿摺ダム下流地点で約0.2m低下させた。



注)この資料は速報として取り急ぎまとめたもので、後日一部訂正や追加することがあります。